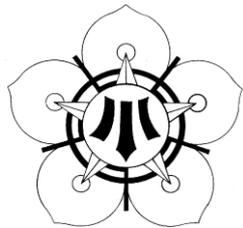


地域と家庭と学校が一つになって子供を育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生第七小学校ホームページ

<http://fussa-7e.hs.plala.or.jp/>

福生市立福生第七小学校

令和4年度 学校だより

発行責任者

校長 山岸 史子

所在地

福生市北田園一丁目1番地1

令和4年10月3日発行

学力調査等から分かること

副校長 中村 将行

つい先日まで鳴いていたセミの声が今は全く聞こえてこなくなり、キンモクセイの花の香りが漂っています。学校の敷地には、柿やヒメリンゴ、ナツメの実が色づき、クヌギの木のドングリがたくさん落ちています。まだまだ気温が高い日もありますが、秋の気候になってきています。秋はその過ごしやすい気候から、スポーツの秋、芸術の秋、など「○○の秋」と言われます。福生第七小学校でも運動会や学習発表会等様々な学校行事を予定しております。



色づき始めた柿の実

秋は「勉強の秋」でもあります。本校では、「福生市総合学力調査（2～6年）」、「全国学力・学習状況調査（6年）」、東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査（4～6年）」等の結果から、本校の子どもたちの学習状況を把握し、授業改善をおこなっています。今回は5・6月にあったアンケート調査「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を基に、子どもたちの学習の様子をお伝えします。

この調査では、東京都の小・中学生が、各教科の授業の様子や学習のすすめ方、学習習慣など様々な項目のアンケートに答えています。本校の児童の学習への取り組みなどが、東京都の平均（以下「都」とする）と比較することでよく分かります。全体としての傾向は、都と同じかやや低い傾向（-10%以内）があります。

都より高い項目として「他の人と意見がちがったときは、質問して相手の考えを確かめている」「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している。」があります。これは、本校がiPad等を活用して推進している、「協働的な学び」に関する項目です。友達と学び合い、分からないことをそのままにしないという姿勢が身に付いてきています。教科に関しては、算数の学習については、「答えだけではなく、途中の計算も書いている。」が都を上回っており、それ以外の項目も都とほぼ同等の様子でした。

都より低い項目は「学習を得意と思っている。」人数の割合です。都と比較して国語と社会で20%近く低い割合となっています。「授業の内容は分かりますか。」という質問はそこまで低くないので、「分かる」けど「できる」と実感するに至っていないことが分かりました。また、学習習慣（学習塾や家庭教師による学習等を含めない）についても大きな課題があることが分かりました。都では75%の児童が平日毎日30分以上学校以外で学習しているのに対して、本校は50%でした。今後は宿題等も見直し、子どもたちの学習習慣が身に付くような取組をしていきます。

2学期は学校行事も多く、ご家庭に様々なご協力をお願いすることとなります。中でも特にお願いしたいのが、子どもたちの規則正しい生活です。子どもたちが学習に行事に取り組むためには、適度な運動・休息・睡眠・食事が重要です。生活リズムを整え、よりよい学びができるよう、よろしく願いいたします。

